

(4) 実践内容

① 生徒が理解しやすい視聴覚教材を活用した。
 ア. 工業高校フィルムライブラリーの題名「電子計算機」(16ミリ映画, 25分)を使用した。
 イ. VTRには, NHKが制作した「ハローコンピュータ」(シリーズで各20分)を用いた。その内容は次のようなものである。

1. コンピュータグラフィックス
2. びっくりシミュレーション
3. おもしろロボット
4. おしゃべりパソコン通信
5. なんでもデータベース

② BASIC言語プログラミング実習では, パソコンが20台なので, 2班に分けて実施した。

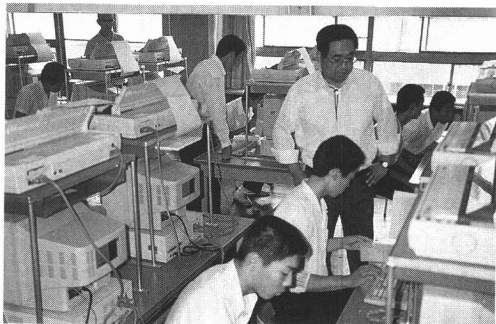
③ BASIC言語実習では, 次の基本命令を用いてプログラミングの学習をさせた。

PRINT, READ, DATA, INPUT, GOTO
 IF THEN, FOR NEXT の各文と関数
 その他グラフィックの各文

--(実習プログラムの1例)--

```

10 rem --- string$ ---
20 for M=4 to 9
30 print M:"月度"
40 read N
50 print string$(N,"*")
60 next
70 data 15,16,19,17,28,32
run
4 月度 *****
5 月度 *****
6 月度 *****
7 月度 *****
8 月度 *****
9 月度 *****
  
```



「ホッホー, よくできてるな」

④ 評定尺度Ⅱで低い評価をした生徒については, MG性格検査結果の診断等も参考にして個別指導の強化に努めた。

3 結果と考察

(1) 結果と考察

評定尺度Ⅱの調査では, 12要素の全体の学級平均が, 事前3.2から事後3.5へと0.3の向上があった。

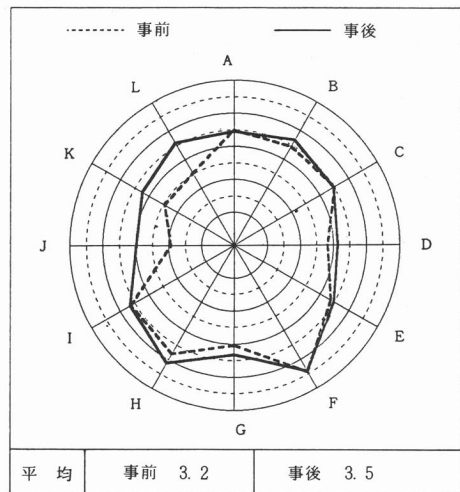


図3 評定尺度Ⅱ

事前調査での低い要素を向上させるため研究実践した結果, それらの要素についての学級平均は次のような伸びがあった。

要素	事前	事後	変容
J 情報科学の基礎	1.9	3.0	+ 1.1
K 情報手段の特徴	2.4	3.2	+ 0.8
L 情報手段の基本的操作	2.5	3.6	+ 1.1
D 新たな情報の創造	2.8	3.1	+ 0.3
G 情報化の影響	3.1	3.3	+ 0.2

この事前・事後2回の調査から, 次のことがいえる。

① L操作について

コンピュータを使用することができるかという問いに対して, 事前調査ではやや否定的な答え(2.5)でしかなかったものが, 事後の評価では